

1 文(文章)で解答する設問の答案については、次のA項の加点要素の合計から次のB項・C項の減点要素の合計を引いた得点をその設問の得点とします。ただし最低点は0点としマイナスの得点はつけません。

A

a 以下の採点基準では、模範解答をいくつかの要素に分割し加点要素とします。答案中にその加点要素に相当する部分があれば、その加点要素に配点された得点を与えます。

b ある加点要素は、その加点要素に配点された得点か0点で採点することを原則とします。たとえば5点配点された加点要素であれば5点か0点で採点することを原則とします。その場合それぞれの採点基準の中に明記されていません。ただし、その加点要素中の部分点を認める場合もあります。その場合それぞれの採点基準の中に明記されていません。

c ある要素に加点するか否かが、他の要素と無関係に決まる場合と、他の要素との関係で決まる場合があります。前者の場合は、その要素を単独採点(独立採点)すると言いその旨必ず明記されています。後者の場合は、他の要素との関係について以下の採点基準で具体的に指示されています。

d **解答通り**という条件がある場合はいかなる部分点も認めません。

B

a 答案中に大きな誤読と判定される内容(語句)などがある場合は、その内容(語句)を減点要素として示されている場合もあります。

b 加点要素でも減点要素でもない部分もありえます。その部分は加点も減点もしません。

C

次に該当するものは、答案の形式上の不備として、一箇所につき1点の減点要素とします。

a 誤字。漢字などの文字の明らかな誤りは誤字とします。

b 脱字。

c 文末の句点の脱落。

*字数指定のない場合、句点の脱落は誤字とし1点の減点とします。

d その他不適切と判断せざるをえない箇所。

e 不適切な文末処理。設問の問い方に対応していない形で答案の文末を結んでいない場合は、適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備による減点要素とします。

たとえば「:とはどういうことか?」という問いに体言で結んでいないものなどは適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備とします。

また、理由が問われているのに、「から」「ので」などで結んでいないものなども適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備と見ます。

*ただし、「ことである」などの表現も「こと」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。また、「からである。」などの表現も「から」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。

また文末の表現を問わない場合もありますが、その場合はその都度明記されています。

2 日本語の表現として不適切なものは程度に応じて減点します。

3 次の各項に該当するものは、部分点の要素があっても、その設問の得点を0点とします。

a 答案が解答欄の欄外にはみ出しているもの。

b 一行の解答欄に二行以上書いた場合もその設問の得点を0点とします。

c 字数指定のある設問で、字数をオーバーしたもの。

d 答案の文章が最後まで完結していないもの。

4 **古文あるいは漢文の訳を記述する設問**の場合も以上に準じますが、文末の句点や文末の処理あるいは答案の完結にこだわらなくともよい場合はその都度明記されています。

第一回 五月 有名大本番レベル模試 採点基準 【50点満点】

問一 ロ 「4点」

問二

(1) 森有正が小学校の時からピアノを習っていて、母親とバッハの話をしていたことを、印象深く、リアルに「感じたから。」(47字) [8点]

A 森有正が小学校の時から (1点)

B ピアノを習っていて、(2点)

C 母親とバッハの話をしていたことを、(2点)

※ 「母親と男の子の会話」、でも可。

D 印象深く、(1点)

※ 「灼きつくふうに」をそのまま使ってもよいし、言い換えてもよい。

E リアルに (2点)

(2) パイプ・オルガンでバッハを弾き続けている森有正を、宗教的感受性において自分とは同類の者のように「感じたから。」(47字) [8点]

A パイプ・オルガンで (1点)

B バッハを弾き続けている森有正を、(2点)

C 宗教的感受性に (3点)

D 自分とは同類の者のように (2点)

問三 パリの森有正に唐突に国際電話をかけた時 (19字) [5点]

A パリの森有正に (2点)

※ 「パリ」と「森有正」がそろって得点。

B 唐突に (1点)

C 国際電話をかけた (1点)

D 時 (1点)

※ABCのいずれかの要素が欠けていて代わりに「今年の五月」を入れている場合、1点を与える

問四 X || ニ Y || イ

[4点×2]

問五 魂の先端でその音色を味わうよろこび (17字)

[5点]

問六 自分と他人は別の存在であり、人間が孤独な存在であることは当たり前だという意識。
(38字) [8点]

- A 自分と他人は別の存在であり、(2点)
- B 人間が孤独な存在であることは(2点)
- C 当たり前だという(2点)
- D 意識(2点)

問七 ハ

[4点]

【計50点】

二 (評論) 採点基準 (合計 50 点)

問一 各2点 (計8点)

- 1 差異
- 2 浸
- 3 宣伝
- 4 顧慮

※解答通り

問二 各4点 (計8点)

- 一 激しい流れ・勢いのよい流れ
- 二 悔ること・軽んじること

問五 4点

愛読

※解答通り

問七 各4点 (計8点)

ロ・ホ

※解答通り (順不同)

A ○2点

私たちの身体が生きていくことについて、

B ○2点

誰しもが感じることのできる、

C ○2点

行動の中心として他に働きかけるといふことと、

D ○2点

自然の中にただ存在するということの、二つのあり方。

(80字)

※A・B・C・Dに関して部分採点

A 「私たちの身体が生きていくことについて」(2点)

※「二重性」の前提条件として「身体が生きていくことに関わる」ものであることの指摘。

○「私たちが生きる中で感じる」も可。

B 「誰しもが感じる」ことのできる」(2点)

※「あの」の意味の説明。

C 「行動の中心として他に働きかけるといふこと」(2点)

※「二重性」の一方の説明。

△「行動の中心として〈働く〉こと」は、「働く」の説明が不十分な、単純な本文からの抜き出しの形であるので▲1点減点で△1点。

D 「自然の中にただ存在するといふこと」(2点)

※「二重性」のもう一方の説明。

△「自然のなかに、あるいは宇宙のなかに感覚を負って〈在る〉こと」は、「在る」の説明が不十分な、単純な本文からの抜き出しの形であるので▲1点減点で△1点。

*「二重性」(解答例の「二つのあり方」にあたる部分)という表現の言い換えは今回は加点・減点の対象としな
い。

問四 12点 (模範解答例)

A ○2点

文字が大量の知識を提示することを可能にした結果、

B ○2点

その量の多さゆえに、

C ○2点

努力によって知識を得るという学びの本来のあり方を、

D ○2点

単なる情報の技術的な処理に変えてしまったということ。

(85字)

※A・B・C・Dに関して部分採点

A 「文字が大量の知識を提示することを可能にした結果」(2点)

※IT化で文字による情報が増加したことの説明。

B 「その量の多さゆえに」(2点)

※Aの観点(増加した量の多さ)のために、C・Dが生じるということにつながる因果関係の指摘。

C 「努力によって知識を得るという学びの本来のあり方を」(2点)

※「災厄」が生じる前の状態(元のあり方)の説明。

○「学びの努力」が説明されていれば可。

D 「単なる情報の技術的な処理に変えてしまったということ」(2点)

※「災厄」の説明。

○「情報に関する技術上の処理」が説明されていれば可。

(別解)

A ○4点

語られる行為、聞かれる行為を離れた記号として固定化された文字が

B ○4点

運ぶ偽の「知識」により、

C ○4点

魂を失い、働きのある智慧を持たず、危険な自負だけを抱え込んだ人間が生み出されること。

(85字)

※A・B・Cに関して部分採点

A 「語られる行為、聞かれる行為を離れた記号として固定化された文字が」(4点)

○「言葉が個人の振る舞い(語られる・聞かれるなど)を離れた符牒として固定される」と説明されていれば可。

B 「運ぶ偽の『知識』により」(4点)

※Aの観点(文字の固定化)のために、Cが生じるということにつながる因果関係の指摘。

C 「魂を失い、働きのある智慧を持たず、危険な自負だけを抱え込んだ人間が生み出されること」(4点)

※「災厄」の説明。

○「働きのある智慧を持たない、危険な自負を抱え込んだ人間が生み出される」が説明されていれば可。

A ○2点

一時的で、限定された事柄に有用な言葉とは異なる、

B ○2点

人間の精神の中にあつて、

C ○2点

その人間の行動の根幹を支える倫理観を表した言葉。

(60字)

※A・B・Cに関して部分採点

A 「一時的で、限定された事柄に有用な言葉とは異なる」(2点)

※第12段落の「話される言葉」の説明を借りて、「書かれる言葉」(文字言葉)の一面を説明。

△「一時的で、限定された事柄に用いる言葉とは異なる」は、「有用性」に触れていないので ▲1点減点で

△1点。

△「限定された事柄に有用な言葉とは異なる」は、「一時的」であることに触れていないので ▲1点減点で

△1点。

B 「人間の精神の中にあつて」(2点)

※Aと同じ考えで、「書かれる言葉」のもう一方の面を説明。ここは「魂に植え付けられる」の言い換え。

△「魂の潜在的状态から現れる」は、本文の言い換えが不十分であるとして ▲1点減点で △1点。

C 「その人間の行動の根幹を支える倫理観を表した言葉」(2点)

※Aと同じ考えで、「書かれる言葉」のもう一方の面を説明。

○「その人間の行動の根幹を支える道徳観を表した言葉」も可。

△「正しい、美しい、善いものについての教えの方向にある言葉」は、『パイドロス』の引用をほぼそのまま

ま用いているので ▲1点減点で △1点。

△「行動の必要から自由になった言葉」は、Aとほぼ同質のことを抽象化したものであるので ▲1点減点で

△1点。

第1回有名大本番レベル模試 採点基準(古文)

問一 ㉑ げす ㉒ たてじとみ ㉓ けさ

㉔ みかど

(各1点×4)

↓解答通りでなくては×。

問二(4点×3)

問二・A・模範解答例

幼い娘

a (1点)

で

b (2点)

特に可愛がっていた

c (1点)

子

b (4点)

【各部の採点】4点満点。加点ポイント3箇所。

a 「幼い」…1点。「幼い・あどけない」の意。「かよわい」はダメ。

b 「〜で」…2点。同格用法。「〜で」と訳し、「ける」の後に「子」もしくは「娘」のような体言が補足してあることが正解の条件。

c 「特に可愛がっていた」…1点。「特に可愛がる」「特別に大切にする」のような解答。1点完答とする。「非常にかわいげのある」はダメ。

問二・D・模範解答例
a (1点) b (1点) c (1点) d (1点)
点) どうして〜ましてようか。 どうして父上のおっしゃることに背き申し上げましたようか。(4

【各部の採点】4点満点。加点ポイント4箇所。

a 「どうして〜ましてようか。」…1点。反語の解釈。「どうして〜できようか」も可。

b 「父上のおっしゃることに」…1点。「父(の言葉)に」「あなた様(のおっしゃること)に」などの言葉の補足。

c 「背き」…1点。「背く」「反対する」「断る」の意。

d 「申し上げる」…1点。「〜申し上げる」という謙讓の補助動詞。

問三 1 || ^ 2 || = 3 || イ 4 || ハ (各3点×4)

問四 ① || ハ ② || = ③ || = ④ || ハ ⑤ || イ (各2点×5)

問五 おとなにならぬもせさせん (4点・完答)
↓ 解答通りでなくては×。

問六 二 (6点)

問七 ハ・ヘ (各2点×2)
↓ 順不同。

問八 口 (2点)

2019年度 第一回 有名大本番レベル模試

四 (漢文) 採点基準 (合計250点)

問一 【解答通り】各2点 2×4=8点

模範解答

a || お(ける)や (b || ゆえん)の (c || い)や (d || や)哉

採点基準 ・ b 「ゆゑん」は×【現代仮名遣いで】。

問二 3点

模範解答

孔子(孔丘)

採点基準 ・ 別解 「仲尼」も可。

問三 【解答通り】6点

解答

人 不レ 可ニ 以 無レ 恥

採点基準 ・ 部分点なし。

問四 5点

模範解答

清(廉) 潔白

採点基準

・ 誤字は1点減点。
・ 「潔」は「潔」も可。

問五 5点

解答

亦

問六 【解答通り】 5点

解答 国

問七 【解答通り】 4点

解答 ニ

問八 (一) 6点 (二) 8点 合計 14点

模範解答

|| 未だ || 嘗て || 独醒の人 || 無くんばあら || ざる || なり。

採点基準

- ・漢字とすべき箇所をひらがにしている、またその逆は↓一箇所につき減点1点。
- ・「嘗て」の誤字に注意。「尚」+「旨」。
- ・「未だ嘗てゝざる(ず)」ができていたら、3点。
- ・「無くんば」を「無からんば」「無から」としているものは減点2点。
- ・「独醒の人」に「は」「が」をつけた場合は、減点1点。
- ・「を」「に」など文構造が主体でなくなる場合は、減点2点。
- ・「ざる」を「ずる」としたものの減点1点。

()

a 1点

b 2点

c 1点

模範解答

||

多くの人が 恥を捨てている 世の中でも

d 2点

e 2点

一人でも恥を知る人は 必ずいる ということ。

採点基準

- ・ aとcを合わせて「世の中の人」も可。ただし、bとcが不可の場合はaの加点は無い。
- ・ b「捨てる」は「顧みない」なども可。
- ・ c「時でも」も可とする。
- ・ d「廉恥心を持つ人」なども可。
- ・ e「今までにいないわけでもない」も可。「今までに」はなくとも可。
- ・ 結びの語句に「〜ということ。」はなくとも可とする。